

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターらいむの丘			
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日	～	R7年 11月 30日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	R7年 10月 1日	～	R7年 11月 28日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○訪問先施設評価実施期間	R7年 4月 1日	～	R7年 11月 28日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	28	(回答数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 16日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	色々な専門職がいること。 ※より強化・充実を図ることが期待されること	保護者が気になることに対しての専門職を配置できている。	引き続き、保護者のニーズに合った専門職を配置する。
2	保護者に対してきめ細かい対応を行っている。	日頃の関係性を深め保護者が相談しやすい関係作りをしている。	保護者に対してこまめに職員から声かけする。
3	園や学校との連携を深めてきている。	職員間で保護者や子どもの様子を共有し、園や学校の関係者との情報共有を図っている。	トライアングルプロジェクト（家庭、教育、福祉の連携）である本事業において、引き続き保護者や園・学校に対し、丁寧な連絡や報告を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	依頼から実施、保護者への報告までに時間がかかっている。	実施までの流れについて検討が不足している。 担当者の人数が不足している。	見通しを持った日程調整を行う。 保護者の希望等のとりまとめを行い、職員間で共有を図る。
2	個別の実施状況がわかりにくい。	進歩状況の共有が不足している。 職員の役割が可視化されていない。	実施の流れや職員の役割を可視化することで、情報共有し、係で進められるようにする。
3	本事業については、相談支援員との情報共有が弱い。	必要な情報を職員間で共有できていない。 保護者への説明が不足している。	保護者への情報発信を引き続き行う。 相談支援員との情報共有を密に行う。